

伊賀市スポーツ推進計画

パブリックコメントに寄せられたご意見

- パブリックコメント募集期間
令和4年3月1日～3月31日
- 寄せられた意見
メール
FAX
書面持参 2件 (個人 2件)

イ) 伊賀市の課題

【現状記載】

- 1 スポーツを取り巻く環境
- 2 伊賀市の現状
 - ア) 少子化の進行
 - ①伊賀市人口ビジョン
 - ②スポーツ（学校）施設の利用が減少
 - イ) 伊賀市の課題

ご意見	回答
目次の表記から考えて、「イ) 伊賀市の課題」は、「3 伊賀市の課題」が正しいと思われる。	【反映】 ご意見のとおり誤記ですので修正し、「高齢」を追加します。 (誤) 2 伊賀市の現状 ア) 少子化の進行 ①伊賀市人口ビジョン ②スポーツ（学校）施設の利用が減少 イ) 伊賀市の課題 ↓ (正) 2 伊賀市の現状 少子高齢化の進行 ア) 伊賀市人口ビジョン イ) スポーツ（学校）施設の利用が減少 3 伊賀市の課題

意見2 ページ数 5
第2章 スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題
【現状記載】
第2章 スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題

ご意見	回答
本文5ページから12ページの内容は、全国のことか伊賀市独自のことが分かりにくいので、いっそのこと、第2章のタイトルを「スポーツを取り巻く状況と伊賀市が取り組むべき課題」と修正して、全国や伊賀市の現状を述べた後、伊賀市に取り組むべき課題を文章としてはいかがか。	【現状表記】 第2章「スポーツを取り巻く環境と伊賀市の現状・課題」における『1 スポーツを取り巻く環境』では、国の基本計画などで明らかになってきているスポーツを取り巻く環境について記載しております。 一方、『2 伊賀市の現状』では、スポーツを「する・みる・ささえる」面から今後これらを支える人口推移や高齢化の状況と施設利用状況について記載しております。 また、「3 伊賀市の課題」ではアンケート調査等により明らかになった事項について課題として記載しておりますので現状のとおりとします。

意見 3 ページ数 5
1 スポーツを取り巻く環境の①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下
【現状記載】 1 スポーツを取り巻く環境 ①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下 スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、 ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせることも難しくなっていること が考えられます。 また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
3行目から4行目 スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、・・・の部分について そもそも「第2次基本計画」ではなく「第2期スポーツ計画」が正しい。そのうえ、『(第2期)スポーツ基本計画』には「運動能力」ということばは使われておらず、基本計画のP8には次の表現がある。 ・子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃ピーク時と比較すると依然として低い水準にある。それを踏まえれば次のように修正し記述すべきではないか。 ⇒平成29年3月24日付け文部科学省『(第2期)スポーツ基本計画』によると、「こどもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると依然として低い水準にある。」と分析されています。	【反映】 ご指摘のように「第2期スポーツ基本計画」、また「スポーツ庁」は「<u>文部科学省</u>」の誤りですので、当該箇所をはじめ計画全体で修正をします。 ①を基本計画を参酌し次のとおり修正します。また(ア)以降の背景は可能性として考えられますが、国の計画で明確な根拠が示されていないので削除します。 ①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下 <u>文部科学省が策定した『第2期スポーツ基本計画』によると、子どもの体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は依然として低い傾向にあります。さらにスポーツの好き嫌いにより積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められ、運動習慣が身につけていないことが課題とされています。</u> <u>このため、子どもが積極的にスポーツに取り組めるよう学校の体育や地域スポーツなどを通じて充分体を動かしてスポーツの楽しさなどを実感できる環境整備を図る必要があります。</u>

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせる

ことも難しくなっていること

が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
この分析内容が適切か疑問に思う。『スポーツ基本計画』P8には次の文章がある。 ・子どもの体力は、緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると低い水準にある。スポーツ基本計画のどの部分を引用したのか分かりにくい。以下のように修正することを提案します。 ①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下 文部科学省が平成29年3月24日付けで公表した『スポーツ基本計画』には、「子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるが、昭和60年頃のピーク時と比較すると依然として低い水準にある」とある。少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下は深刻になっている。その背景には、大きく次の3点が理由として考えられます。 ア) 少子化により地域の・・・ イ) スポーツ活動の指導者不足から・・・ ウ) 習い事で忙しく・・・また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。	【反映】 意見3による

意見 5 ページ数 5	
①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下	
【現状記載】 1 スポーツを取り巻く環境 ①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下 スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、 ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせることも難しくなっていること が考えられます。 また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。	

ご意見	回答
「背景」として、ア)、イ)、ウ) の3点、ならびに最後の行で「スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます」と述べているが、根拠がどこにあるか伝わってこない。「第2期スポーツ基本計画」においても、そうした背景を述べているところがあるのか不明。あるのであればその根拠を示すべきではないか。	【反映】 意見 3 による

意見 6 ページ数 5

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

【現状記載】

1 スポーツを取り巻く環境

①少子化と子どものスポーツ離れ・体力の低下

スポーツ庁が策定した『第2次スポーツ基本計画』によると、子どもの体力・運動能力は昭和60年ごろをピークに低い傾向にあります。この背景には、

ア) 少子化により地域のスポーツ団体活動が成り立たず、学校では運動部の休部・廃部が増加していること

イ) スポーツ活動の指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会が減少することでスポーツ離れが一層進み子どもたちの運動する機会が減少していること

ウ) 習い事で忙しく、テレビゲーム等の室内遊びの増加により外遊びやスポーツ活動時間が減少傾向にあり、加えて犯罪や事故などへの懸念から子どもだけを身近に遊ばせる

ことも難しくなっていること

が考えられます。

また、スポーツをする子どもと、しない子どもに二極化する傾向が見られます。

ご意見	回答
スポーツ離れや体力低下の根拠が示されていないのに、言い切ること は学術的にも無理があるのではないか。現状を表すのであれば「①こ どもの体力は低い水準にあり、運動習慣の二極化が見られる」ぐらいしか 言えないと思われる。 (参考) 「スポーツ基本計画」 P 8 現状と課題より ・スポーツが好きな子どもの割合は、小学5年生と比較し中学2年生が 低く、特に中学生の女子は2割以上が「嫌い」・「やや嫌い」であり、 運動習慣の二極化が見られる。	【反映】 意見 3 による

意見7 ページ数 5
②高齢化による健康寿命の延伸
【現状記載】 ②高齢化による健康寿命の延伸 毎年平均寿命は延び続け、直近の『令和2年厚生労働白書』によると、男性：80.98歳、女性：87.14歳となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。 一方、健康寿命は男性：72.14歳、女性：74.79歳となっており、平均寿命との差は約8年から13年となっています。平均寿命が延伸傾向のなか、日々の生活の状況に応じて体を動かすことで健康寿命を延ばし、病気や介護状態になりにくくすること（不健康な状態になる時点を遅らせる）が期待されます。

ご意見	回答
「厚生労働白書」の引用であるので、全国のことを言いたいと思われる。伊賀市のことはP8「2伊賀市の現状」にもないので、このページでは、全国と伊賀市を纏めて記述するべきである。 令和元年で、 （男）平均寿命82.3歳 健康寿命79.2歳 （女）平均寿命88.3歳 健康寿命81.5歳 を文中に挿入することを提案。 【P8】 ア）少子高齢化の進行 伊賀市の人口は減少傾向にあり、2015（平成27）年から2040（令和22）年までの25年間に於いて24,133人減少し、約66,000人余りになると見込まれています。 年齢構成別の人口割合の推移をみると、老年人口の割合は増加で推移することから、伊賀市においても人口に占める老年人口は、（注5）超高齢化社会を歩む状況となっています。	【反映】 国の最新データが更新されたので改め、出典名を修正します。 またご意見にある伊賀市における年齢等については、P8「少子高齢化の進行」に記載します。 【P5】 ②高齢化による健康寿命の延伸 毎年平均寿命は延び続け、令和元年度における『厚生労働省簡易生命表』によると、男性：81.41歳、女性：87.45歳となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。 一方、健康寿命は男性：72.68歳、女性：75.38歳となっており、平均寿命との差は約8年から13年となっています。 平均寿命が延伸傾向のなか、日々の生活の状況に応じて体を動かすことで健康寿命を延ばし、病気や介護状態になりにくくすること（不健康な状態になる時点を遅らせる）が期待されます。 【P8】 ア）少子高齢化の進行 伊賀市の人口は減少傾向にあり、2015（平成27）年から2040（令和22）年までの25年間で24,133人減少し、約66,000人余りになると見込まれています。 『三重県推計資料』による平均寿命と健康寿命は、それぞれ男性：82.30歳（79.20歳）、女性：88.30歳（81.50歳）となっています。また、年齢構成別では、老年人口は増加で推移し、人口に占める老年人口は、（注5）超高齢化社会が進んでいく状況です。

余暇活動及びスポーツニーズの多様化

【現状記載】

③余暇活動及びスポーツニーズの多様化

余暇活動の一つとしてのスポーツへの関わり方は多様です。健康増進や交流を実施目的とするもの、種目においてもサッカーや野球などの団体競技に加え個人で行うウォーキングやジョギング、さらにはスポーツジムでのトレーニングなどもあります。

また、近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます。（『2020レジャー白書』公益財団法人日本生産性本部）

一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどの(注1)パラスポーツ、あるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツやレクリエーション競技、さらにはスケートボードやBMXなどの(注2)アーバンスポーツへの関心も高まってきています。

ご意見	回答
●「ウォーキングやジョギング、さらにはスポーツジムでの・・・」という文章を以下のように下線の部分を挿入していただきたい。 ⇒「・・・ウォーキングやジョギングに加え水泳やサイクリング、登山、さらにはスポーツジム・・・」 ●また、「近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます（『2020レジャー白書』）」の部分を次のように変更していただきたい。 ⇒『2020レジャー白書』によると、近年では若年層によるスポーツ観戦の増加が見られます。なでしこリーグで活躍している「伊賀FCくノ一三重」などのプロスポーツもその一例です。 ●また、「一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどのパラスポーツ、あるいは・・・」の部分を次のように変更していただきたい ⇒「一方、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を機にボッチャなどのパラスポーツ（いわゆるパラスポーツ）、あるいは・・・」	【現状表記】 国の基本計画などでスポーツを取り巻く環境概要について記載しておりますので現状表記とします。 パラスポーツの言葉自体が正式なものではない為、（注1）において言葉の解説を記載していますので、現状のとおりとします。

意見 9 ページ数 5～6

「③余暇活動及びスポーツニーズの多様化」以下

【現状記載】

- ③余暇活動及びスポーツニーズの多様化
- ④体力低下とストレスの増大
- ⑤新型コロナウイルス感染症対策
- ⑥人間関係の希薄化と新たな連携ツールとしてのスポーツ
- ⑦スポーツを支える環境の変化
- ⑧スポーツ施設の老朽化・小規模類似施設の点在

ご意見	回答
タイトルについて現状を表す文章にしてタイトルを全て修正する。 ③スポーツニーズの多様化が進んでいる ④体力低下と精神的ストレスが増大している ⑤新型コロナウイルス感染症への対策が求められている ⑥人間関係の希薄化打開のため新たな連携ツールとしてのスポーツが期待されている。 ⑦スポーツを支える環境が変化している ⑧市内スポーツ施設の老朽化・小規模類似施設の点在による課題がある	【現状表記】 計画全体の書き方により、現状のとおりとします。 <u>【一部修正】</u> <u>⑧を修正します</u> <u>⑧スポーツ施設の老朽化・既存施設の有効活用</u> <u>高度成長期に整備された施設の老朽化が一斉に進行し、日常の維持管理費用や改修費等の増嵩が避けられない厳しい状況にあります。このことから計画的に既存施設の安全性や利便性を高める改修や、スポーツ・学校体育施設の効率的な利用方法、さらには新しいスポーツニーズにも対応する検討を行っていく必要があります。</u>

意見10 ページ数 8～9
P 8～9 のデータについて
【現状記載】 P8「伊賀市人口ビジョン」「将来推計人口」 P9「スポーツ施設の利用状況」「学校施設（グラウンド・体育館）の利用状況」

ご意見	回答
P 5～7に組み入れる。少子化高齢化の進行と内容については、P 5の②に入れ込む。 またスポーツ（学校）施設の利用が減少のデータは、P 7の⑧に組み込む。	【現状表記】 意見2のとおり

【現状記載】

① スポーツを週 1 回以上実施する人口が少ない
(アンケート番号：市民 問12)

成人全体の実施頻度は53.6%で前回調査(28.3% H19)から大幅に増加していますが、年代が上がるにつれて実施頻度は低くなる傾向にあります。また、全世代で女性の実施頻度が男性より低くなっています。実施頻度の低い年代や女性を中心に普及啓発を行い、成人全体の実施頻度を高くする取り組みが必要です。

② スポーツをしない(できない)理由として、「家事」「時間がない」が多い
(アンケート番号：市民 問14)

スポーツをする意識の無い方が(19.0%)おり、体を動かす動機づけや情報提供の在り方について検討が必要です。
地域でのスポーツ活動や市民スポーツフェスティバルにおいて、レクリエーションスポーツの普及啓発や実施を望む声が多く、レクリエーションスポーツが体を動かす動機づけになるような取り組みが必要です。

ご意見	回答
スポーツを取り巻く状況に指導者育成や女性参画の問題が見当たらない。特に女性参画については、資料の問 1 2 - 2 や問 1 4 - 2 など男女別を比べている以上、そうした観点での分析が欲しいのではないかな。	【反映】 指導者育成は、現行の「⑦スポーツを支える環境の変化」にサポート人材の確保について記載しています。 女性参画についての課題(スポーツの実施状況)は、P 1 0「スポーツをする視点での課題」の①に記載しています。 また、②のスポーツをしない(できない)理由について文言を追加します。 ② スポーツをしない(できない)理由として、「家事」「時間がない」が多い (アンケート番号：市民 問14) <u>男女間で大きな差は見られませんが、女性では「面倒くさい」が上回り、全体ではスポーツをする意識の無い方が(19.0%)いることから</u>、体を動かす動機づけや情報提供の在り方について検討が必要です。 地域でのスポーツ活動や市民スポーツフェスティバルにおいて、レクリエーションスポーツの普及啓発や実施を望む声が多く、レクリエーションスポーツが体を動かす動機づけになるような取り組みが必要です。

3 計画の実現に向けた連携・協働体制

【現状記載】

計画では、これまでの取り組みを継承・発展させつつ、国際連合が提唱する「(注6)持続可能な開発目標 (SDG s)」の視点も取り入れるとともに、行政やスポーツ団体、スポーツを行う個人ばかりでなく、住民自治協議会をはじめとする市民、学校、民間企業、N P O 法人等の団体、スポーツ推進委員、施設管理を受託している指定管理者などと共に、それぞれの役割や責任を踏まえ、連携・協働して計画を実現します。

ご意見	回答
2 行目からの文章に下線部を挿入する。 開発目標 (SDG s) の視点も取り入れるとともに、<u>公民館をはじめとする社会教育行政、観光や福祉分野の行政やスポーツ団体、スポーツを行う個人ばかりでなく、住民自治協議会をはじめとする市民・・・</u> 図 学校・保育・幼稚園・<u>公民館</u> 伊賀市 (<u>観光、福祉、教育等</u>)	【現状表記】 「行政」の幅は多くの分野に渡ることから、ご意見にある公民館・社会教育、観光・福祉行政も含めて行政としています。 また、令和3年度に改定された「伊賀市生涯学習推進指針」では、スポーツなど生涯学習の推進として、住民自治協議会の役割も示されていることから、図においても様々な実施主体が共に連携しながら進めていくイメージとしており、現行のとおりとします。

1 基本目標「する」スポーツ人口の拡大

【現状記載】

年齢、興味、目的、障がいの有無などに関係なく幼少年期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に親しめる（sportsinlife）環境を創出します。
このことで体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸を目指します。

ご意見	回答
表の上にある文章に、次の下線文章を入れることで、スポーツ分野における伊賀市らしさも創り出してほしいと思います。ステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に楽しめる（sports in life）環境を創出します。 <u>また伊賀市らしさとして「忍者」や「芭蕉」などを関連付けたスポーツ活動の開発を進めるとともに実行し、伊賀市民としてのアイデンティティや郷土を愛する気持ちの向上に寄与できることを目指します。</u> <u>こうしたことを総合し体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸を目指します。</u>	【反映】 新しいスポーツ活動の創出は、地域資源や人材を活用しつつも新しい価値観などにも配慮しながら従前のスタイルに拘らず自由な発想のもとで検討することも必要です。その過程では実施者はもちろん、各実行委員会などの主催者が主体的に検討を行うことで、改めて地域に愛着をもってもらえるようにすることも必要なため一部修正します。 年齢、興味、目的、障がいの有無などに関係なく幼少年期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、生活の中でスポーツを気軽に親しめる（sportsinlife）<u>ことで体力向上をはじめ、心身の健康増進や健康寿命の延伸、さらにスポーツを通じた郷土愛着の醸成が図られる環境の創出を目指します。</u>

1 基本目標「みる」スポーツ活動の普及・啓発

【現状記載】

スポーツへの興味を高める手段として、トップレベルのスポーツに触れる機会をスポーツチームなどと連携し、SNSなどの広報媒体の活用により、試合情報やスポーツ教室などの情報発信を図ります。

②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

様々な媒体を活用し、市内（全国）におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。

例：スポーツ広報誌「忍」、「こコスポ」 など

ご意見	回答
説明文中の2行目に下線部を入れる。 ・・・・連携し、SNSや<u>ケーブルテレビ</u>などの広報媒体の活用により・・・ ②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客 事業概要の例：スポーツ広報誌「忍」、「こコスポ」、<u>ケーブルテレビ</u>など	【反映】 スポーツへの興味を高める手段として、トップレベルのスポーツに触れる機会をスポーツチームなどと連携し、SNSや<u>ケーブルテレビ</u>などの広報媒体の活用により、試合情報やスポーツ教室などの情報発信を図ります。 ②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客 様々な媒体を活用し、市内（全国）におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。 例：スポーツ広報誌「忍」、「こコスポ」、<u>「ケーブルテレビ」</u> など

意見 15 ページ数 資料編 (アンケート調査へのご意見)
実施済みアンケートですので、考え方などについて記載しています。

ご意見		回答
P 4 0 問 1 9	伊賀市で今思いつく観戦できるスポーツは、サッカー位しか思い浮かばない。自分が興味ないのと子どももしていないし観に行こうとはならない。観に行ける競技の数を増やしてほしい。	2021三重とこわか国体・とこわか大会は、伊賀市において5種目が開催予定でありましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の為、中止となり、ハイレベルな試合を身近で観戦していただけるには至りませんでした。今後もサッカーだけに限らず伊賀市の施設において開催される場合は、開催情報をPRしていく予定です。
P 4 2 問 2 2	自分がしてきた事があるものについて、その機会があるなら参加したい (BMX)	ご意見としてお伺いします。
P 4 3 問 2 5	なかなかプロに指導してもらえる環境には無いことの方が多い中、身近で教えてもらえるチャンスがあるのは子供達にとって良いことだと思うが、それを教えられる環境づくりをしないと教えられないのでしてもらいたい。指導者がいても環境が無ければ難しい。	子どもへの指導について種目は限られますが、スポーツ少年団や総合型スポーツクラブ等において指導員によるコーチングが行われています。一方、実施環境では令和3年に策定した「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」において施設整備を進めていくこととしています。
P 4 5 問 2 9	アーバンスポーツは、騒音問題などで嫌がれることが多い。「ここでするな」と言うのは簡単な事だけどだからするのをあきらめさせるのは違うと思う。出来る場所を作ること(許可すること)も大切だと思う。	アーバンスポーツは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機として愛好者が増加傾向にあります。ご意見にあるような課題も承知しており、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」において、限られた環境の中でも実施できることを引き続き検討していきます。
P 4 9 問 1 0	競技人口のこともそうですが、まず伊賀市に住みたいと思える魅力ある町になる事も重要だと思います。若い人が残りたい、住みに来たいと思われる町になれば競技人口も増える。	伊賀市総合計画では、行政だけでなく市民や事業者などが協働でまちづくりを担っていくことされています。本計画でもスポーツをする人ばかりでなく、スポーツをとおした交流などにより、伊賀市に愛着を持ってもらえるよう施策を進めていきたいと考えています。